

平成27年度第3回京都市青少年活動推進協議会

1 日 時 平成27年9月2日（水）午前10時～正午

2 場 所 京都市職員更生会 職員会館かもがわ
3階 大多目的室

3 出席者（敬称略）

山本 智也（会長）	大阪成蹊大学教育学部教授
安保 千秋（副会長）	公益財団法人京都市ユースサービス協会理事長
浅野 桂子	京都家庭裁判所次席家庭裁判所調査官
雨宮 万里子	京都市少年補導委員会理事
川端 英樹	京都保護観察所長
佐々木 佳代	同志社女子大学名誉教授
佐野 光平	公募青少年委員
澤井 早和乃	京都市保護司会連絡協議会会長
長者 美里	京都光華中学校・高等学校校長
橋本 太加伸	京都府警察本部少年サポートセンター所長

4 会議の概要

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて
- (2) その他

5 会議で出された意見等（要旨）

- (1) 「はばたけ未来へ！京都市ユースアクションプラン」行動計画の見直しについて

① 数値目標「青少年活動センターで活躍するボランティア数」について

- ・ 少子化で青少年の数が減るとともに、大学の定員超過分の抑制による京都市の大学生数の減少を見込んで、目標数値は慎重に検討すべきである。
- ・ 数値目標は、青少年活動センターで活動するボランティアのみであるため、そこから自立していったボランティアは対象外となってしまう。
- ・ 青少年活動センターで把握できるボランティアの数に焦点を絞り、質の向上を目指してほしい。

② 数値目標「青少年が参画している審議会等の割合」について

- ・ 現行の行動計画で唯一到達していない数値目標であり、20%は目標が高過ぎる。京都市として、青少年が参画する審議会等の割合を20%となる状況を作りたい、たとえ目標数値を達成できなくても、そのような状況に近付けたいという意思が必要である。
- ・ 審議する内容が若者や子どもをテーマにしている審議会は、必ず青少年を登用してほしいが、それ以外の審議会でも、大学で勉強をしているなどの専門性を持った青少年を登用してほしい。
- ・ 審議会に参画するということは、学生にとって、就職や研究にプラスになるので、大学への働き掛けを考えてほしい。

③ 数値目標「ユースアクションプラン認証事業数」について

- ・ ユースアクションプランに認証してもらおうという事業を増やすことが先決である。認証事業に名乗りを上げる機運を高めることが大事である。

④ 数値目標「若者文化の発信事業の参加者数」について

- ・ 新たな事業をするには予算も必要であるため、毎年2割増という数値は実現不可能ではと懸念している。見直しを検討してはどうか。
- ・ 若者文化の発信は大切な取組であるが、目標数値が毎年度2割増というのは突出している。青少年活動センターでは、若者文化の発信だけをしているわけではなく、他が手薄にならないかが心配である。

⑤ 数値目標「若者サポートステーションの支援により就職した人数」について

- ・ 就職した人のみを数値目標とするより、福祉の観点を入れた数値目標を示していく方がよいと思う。
- ・ 就職にまでつなげるというのは大変難しいが、就職は非常に大切であるので、その目的に視点を持つことが必要である。
- ・ 就職だけでなく、社会参加の段階につなげるのも若者サポートステーションの仕事だと考えている。ユースアクションプランでは、就職以外のところも支援すると考えてもいいのではないか。
- ・ 140人は厳しい目標数値であるが、厚生労働省の数字であり、厚生労働省からの予算ということを考えると、そのままの数字で出す以外にはないのではないか。

⑥ 数値目標「子ども・若者総合支援により、自立に向けて改善した割合」について

- ・ 70%の目標数値は、やりやすい数値である。併せて、就職・就学した人が何%になるかを出した方がよいと思う。

- ・ 現場からは70%という数値が難しいと聞いている。慎重な検討が必要である。

⑦ 高校連携窓口について

- ・ 高校連携専用窓口は、国の若者サポートステーション・学校連携推進事業廃止を受けて、各学校との連携がうまくできるシステムになっているのか。